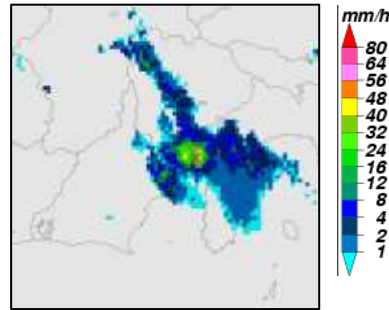
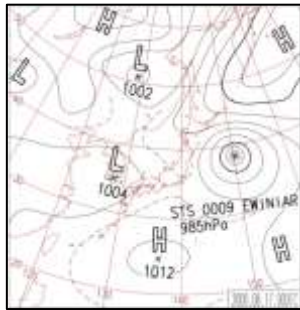


2000年 8月16日～17日 不安定(熱的要因)

1. 気象経過

16日から17日にかけて、台風第9号が日本の東海上にあってゆっくり北上し、低気圧が黄海から朝鮮半島付近にあってゆっくり東進していた。一方、太平洋高気圧とオホーツク高気圧が南と北から張り出しており、これら台風、低気圧、高気圧により、日本付近は相対的な気圧の谷となっていた。16日の日中は、関東から甲信地方にかけ、強い日射により局地的に積乱雲が発達して雷が発生していた。この積乱雲は、台風やオホーツク高気圧からの北東風と太平洋高気圧からの南寄りの風により、次第に南東-北西にのびた線状分布となっていた。そして、16日夜遅くには、線状降雨帯が上空の北東風に流され関東甲信地方から静岡県東部まで南下した。17日未明になると、南寄りの風が、一時的に富士川沿いに集まる(収束する)流れとなり、積乱雲が富士市付近で急激に発達した。これにより、**アメダス吉原では、7日1時までの1時間に77mm、0時30分までの10分間に23mmを観測した。10分間雨量の統計は2008年3月から始めているため、統計期間外ではあるが、現極値2位に相当する雨であった(アメダス吉原は近隣に移設され2007年3月27日よりアメダス富士となったが、移設による観測環境変化は殆どないことから統計は継続されている)**。周辺地域では解析雨量により猛烈な雨を観測した。



2. 大雨の原因、特徴

熱的要因により内陸で発生した積乱雲が、南下して静岡県に短時間強雨をもたらす現象は珍しくないが、その原因は様々で、今回の様な気象条件は一例である。しかし、猛烈な雨となるには、それだけの水蒸気量がなければならぬ。16日21時の浜松(防衛省)高度1500mでは、相当温位※346Kの非常に湿った風が吹いていたこと、富士川沿いに風が収束することにより、周辺の水蒸気が集められたことが原因と考えられる。

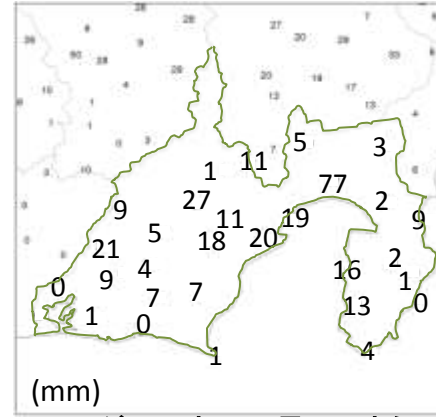
※相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したものの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するよう大雨に警戒が必要となってくる。単位は絶対温度(K:ケルビン)

3. 被害概要

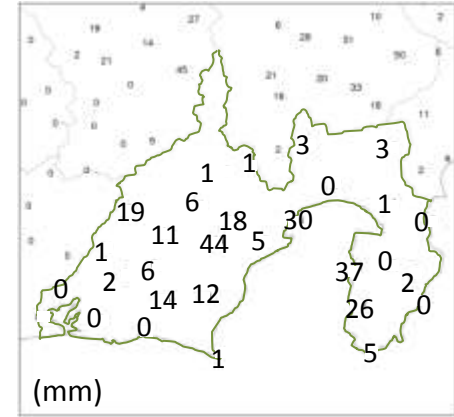
	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 (人)	重傷 (人)	軽傷 (人)	道路 閉鎖 (箇所)	河川 閉鎖 (箇所)	鉄道 閉鎖 (箇所)	鉄道 不通 (箇所)
全県	10	38	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
東部	10	38	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成12年における災害の状況による

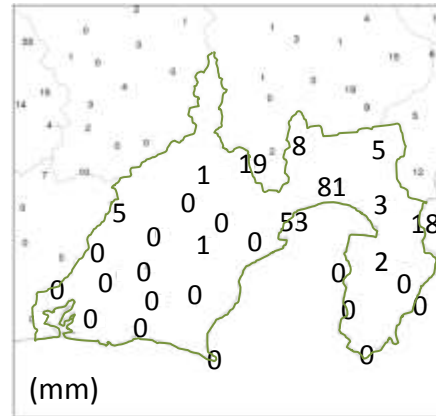
4. アメダス雨量分布図



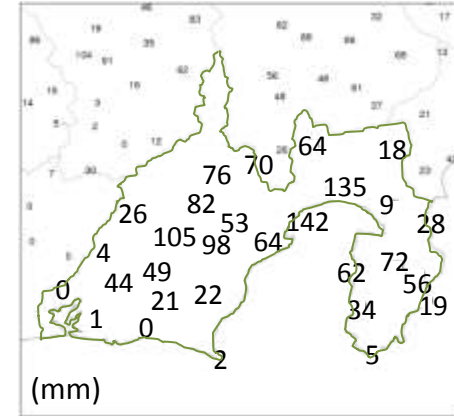
アメダス1時間雨量(正時毎)
8月16日～17日における最大値



アメダス日雨量
8月16日

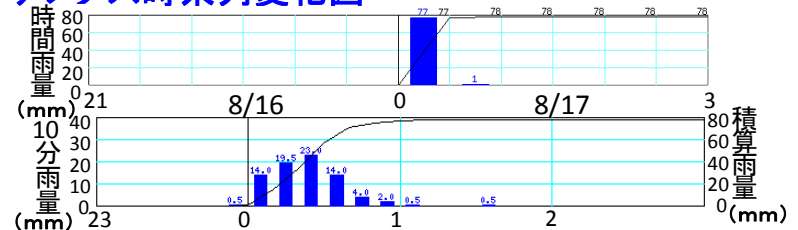


アメダス日雨量
8月17日



アメダス3日間雨量
8月15日～17日

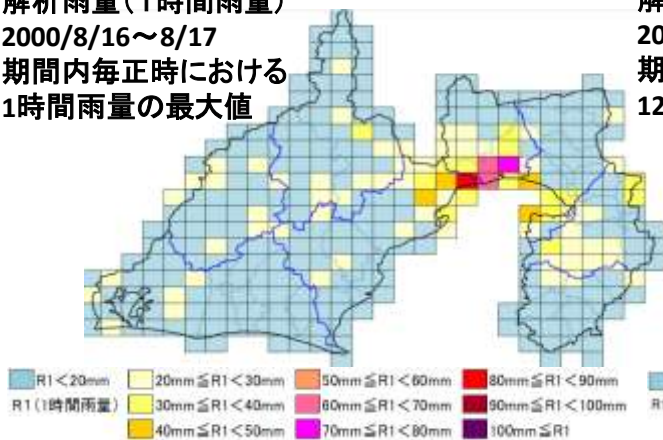
5. アメダス時系列変化図



アメダス吉原(移設後は富士) 時別(上図)、10分別(下図)雨量

6. 解析雨量分布図

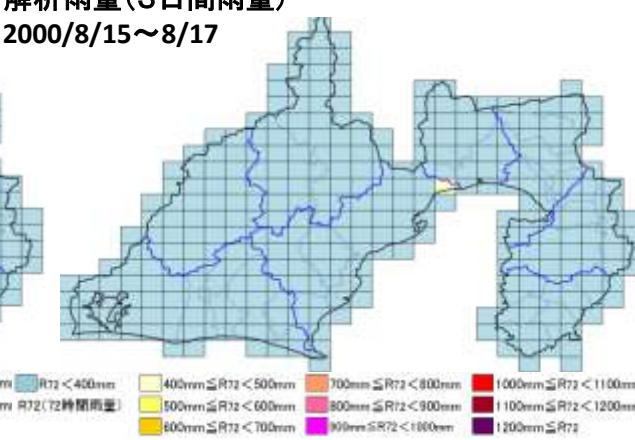
解析雨量(1時間雨量)
2000/8/16~8/17
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



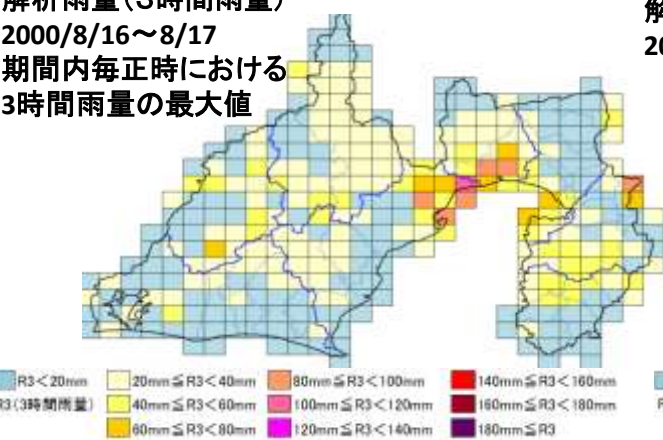
解析雨量(12時間雨量)
2000/8/16~8/17
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
2000/8/15~8/17



解析雨量(3時間雨量)
2000/8/16~8/17
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



解析雨量(24時間雨量)
2000/8/16~8/17

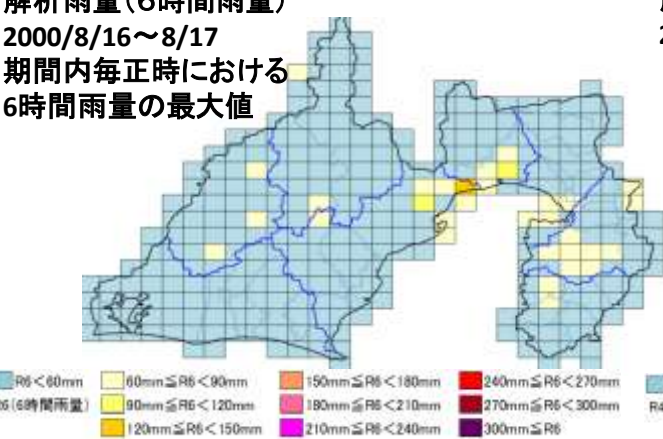


7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)

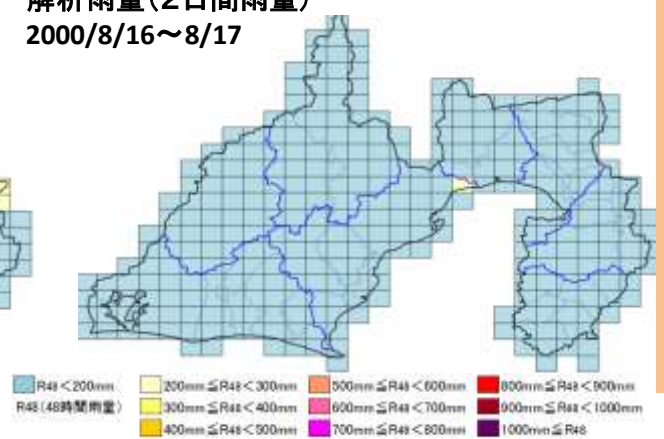


被害数は、静岡県 平成12年における災害の状況による

解析雨量(6時間雨量)
2000/8/16~8/17
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
2000/8/16~8/17



解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

富士市付近に局地的に降った猛烈な雨であった。3時間雨量との比較から、一過性であったことがわかる。富士山南東から静岡市東端では、今回の様に急激に発達する事例が幾つかあり警戒が必要である。